

Book Review



支台歯形成と咬合の基本

小林賢一・真鍋 顕 著



Reviewer

藤本順平

(藤本研修会主宰)

A4判, 218頁
定価 12,600円
(本体 12,000円+税 5%)
医歯薬出版刊



歯科臨床のなかで最も技術的要求度の高い歯冠補綴学において、いかに基礎的科学と臨床とを結びつけるかは大きなテーマである。科学に裏付けされた治療法の選択とともに、一方で確かな技術力に支えられた治療の組立てがぜひとも必要である。

著者の一人である小林賢一先生とは、私がフロリダ大学を辞して帰国した後、当時東京医科歯科大学歯科補綴学第三講座教授であられた長尾正憲先生の教室にお世話になって以来の知己である。小林賢一先生はアカデミックな環境に身を置きながらも補綴臨床に強い興味と関心をもっておられ、早くから科学に裏付けされた技術の重要性について論じてこられた。

今回は同大学歯科補綴学第一講座ご出身で、卓越した臨床家としても知られる真鍋 顕先生と共に本書をまとめられた。“支台歯形成”と“咬合”とを補綴の基本として捉え、その内容を2編に分けて解説している。

第1編第2章の支台歯と歯周組織の関係では、歯周外科処置による歯周組織反応、治療期間と題してさまざまな歯周外科処置による歯周組織の反応と最終歯牙形成の時期や、最終補綴物の装着時期についての具体的な解説が試みられており、歯牙形成を単独のテーマとしてとらえるのではなく、歯周組織、特に歯周外科処置との関連においてまとめられている点が大変ユニーク

である。

また、第4章の「支台築造を考える」では30頁に及ぶ紙面と著者等自身による文献も含めて多くの参考論文をもとに充実した内容となっている。近年、無髄歯の補綴処置後の歯根破折に対する関心の高まり、審美的要求等により、ポストコアに対する考え方がその臨床法を含めて変化している。支台築造体の要件、支台築造体の力学的挙動と歯根破折、フェルールの解説を含む支台築造の留意点、ファイバーポスト、そして合着セメントと続き、支台築造に関する最近の考え方が大変わかりやすくまとめられている。

第2編は有歯顎の咬合に関する基本的事項である。下顎位を知ることの重要性に始まり、治療上最適な下顎位としての中心位について述べている。一般論ではあるが、国内では長い期間にわたり、下顎位に関する統一した見解が得られていないようであるが、ここでは十分な論文レビューにより世界的コンセンサスに基づく下顎位についての解説が明解になされるとともに、その臨床法である中心位への誘導についても解説されている。

次に咬合調整であるが、下顎位についての理解と臨床上の具体的な中心位決定なくしては咬合調整は成り立たないわけで、これらの解説の後に咬合調整のテーマが置かれていることは大変整合性がある。定義に始まり、適応に

ついて、症例提示、基本的術式について、と順序立てて解説されており、TMDと咬合の関係に関するディスプレイカッションを含めて大変要領よくまとめられている。

最後は、誰もが日常臨床で迷うことのある咬合高径の評価法とその変更についてである。まず過去から現在に至る咬合高径の評価法についての紹介を行い、咬合高径の挙上の是非とその影響について関連する重要な論文紹介がなされている。続いて咬合挙上の方法および咬合高径の決定法についてわかりやすく述べている。

全編を通じて感じることとしては、①理論と臨床とを結びつけた実践的内容となっている、②適切かつ十分な海外論文レビューがなされている、③全編カラー刷りでイラストおよび臨床写真が豊富に用いられていてわかりやすい、④テーマによっては筆者等によるまとめた記述があり読者の理解を助けている、⑤終始一貫してできるだけのエビデンスに基いた臨床法の選択がなされている、等をあげたい。

本書は支台歯形成や咬合について学びたいと考えている若い方々から、これらのテーマについての最近の知識を整理しておきたいと考える経験者の方々まで、補綴臨床に携わるすべての人々にとってきわめて実践的内容であるとともに、十分な論文レビューに裏付けされた好著である。